

精神看護学Ⅱ②

精神症候学

令和3年9月10日

産業医科大学 神経・精神科
教育医長 星川大

精神症状を学ぶ必要性

精神症状は、身体疾患の症状とは異なり、現れている症状がどのような病態メカニズムで生じているのかが解明されているものは少ない

症状が〇個以上当てはまれば診断するという、操作的診断が主流したがって、

①特徴的な精神症状を記述する用語を理解する

②患者が示すある言動、行動、感情などの変化が、どのような精神症状に該当するのかを、その用語を用いて記述するという学習過程は、精神疾患の診断、適切な看護ケアや治療介入を行ううえで不可欠

特異的症状と非特異的症状

症状には、特定の障害に直結する症状(典型的な症状)がある。それらを特異的症状とよぶ
例えば、統合失調症における思考伝播、アルコール離脱でみられる振戦せん妄など

ただし、看護を考えるのであれば特異的症状にのみ目をやっけてはいけな
不眠、便秘、下痢、意欲低下など非特異的な症状こそ、その人の日常を強く阻害している場合も珍しくない

主な精神疾患

- ・統合失調症
- ・気分障害<うつ病、躁うつ病(双極性障害Ⅰ型、Ⅱ型)>
- ・認知症<アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症>
- ・神経症性障害
<不安障害、強迫性障害、急性ストレス反応、心的外傷後ストレス障害、適応障害、解離性障害、身体表現性障害>
- ・摂食障害
- ・パーソナリティ障害<情緒不安定性パーソナリティ障害など>
- ・依存症候群<アルコール依存症、ギャンブル依存症など>
- ・精神発達遅滞(知的障害)
- ・発達障害<自閉症スペクトラム障害、ADHDなど>

精神症状の分類

意識障害

知覚の障害(錯覚と幻覚)
思考の障害
感情の障害
意欲・行動の障害
自我意識の障害
記憶の障害、見当識障害
睡眠の障害
知能
性格・人格(パーソナリティ)

意識障害

意識混濁 → 単純な意識障害、意識清明度(覚醒レベル)の低下

意識変容
意識狭窄 → 複雑な意識障害

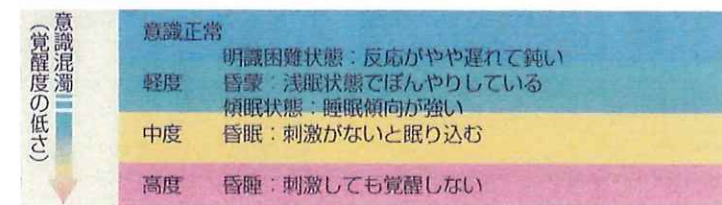
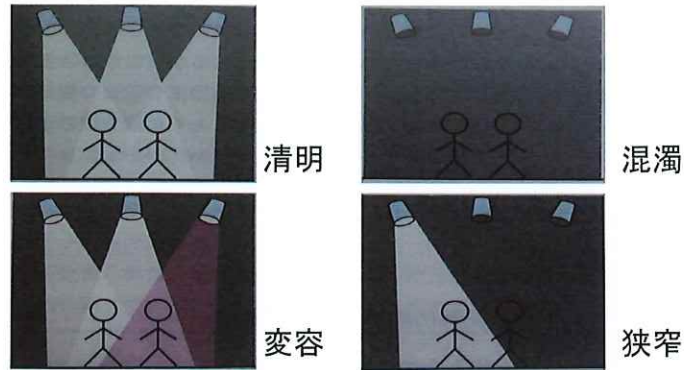


図2-1 ● 意識混濁

意識障害の分類をライトに例えると



意識障害の鑑別

表2-3 ●アイウエオチップス

A	aorta / alcohol	大動脈／急性アルコール中毒
I	insulin	インスリン
U	uremia	尿毒症
E	endocrine	内分泌
O	oxygen / opiate	低酸素症／麻薬
T	trauma / temperature	外傷／低（高）体温
I	infection	感染症
P	porphyria / psychiatric	ポルフィリア／ 精神疾患
S	stroke / SAH / shock / syncope (シンカビー)	脳卒中／クモ膜下出血／ショック／失神

意識混濁

表2-1 ●Japan Coma Scale (JCS)

I 覚醒している	0 意識清明
	1 見当識は保たれているが意識清明ではない
	2 見当識障害がある
	3 自分の名前・生年月日が覚えられない
II 刺激に応じて一時的に覚醒する	10 指差す（会話は聞かずに理解する）
	20 大声で呼びかけたり、強く揺るとかで覚醒する
	30 痛み刺激を加えつつ、呼びかけを待つとこううじて覚醒する
III 刺激しても覚醒しない	100 痛みに対して反応しないなどの動作をする
	200 痛み刺激で手足を動かしたり、顔をしかめたりする
	300 痛み刺激に対してまったく反応しない

※ I: responsiveness (反応性), II: lucid interval (覚醒), A: apathic state (失神状態) または akathisia (不穏) など
状態がある場合は、たとえ1分間でも覚醒する。

表2-2 ●Glasgow Coma Scale (GCS)

4 自発的に開眼	5 見当識あり（年月日や時刻、場所などの状況を把握できている）
3 音声により開眼	4 会話成立（会話は成立するが見当識が混乱している）
2 痛みや刺激により開眼	3 言語理解（見当識はあられるが会話が成立しない）
1 開眼せず	2 理解不明の声を発する
	1 見当識がみられない
	6 命令に従う
	5 痛みや刺激を感じる部分を認識して手で払いのける
	4 四肢屈曲反応、過剰（痛み刺激に対して四肢を引っ込める）
	3 四肢屈曲反応、正常（痛み刺激に対して緩慢な屈曲運動）
	2 四肢伸展反応（痛み刺激に対して緩慢な伸展運動）
	1 まったく動かない

精神症状の分類

意識障害

知覚の障害（錯覚と幻覚）

思考の障害

感情の障害

意欲・行動の障害

自我意識の障害

記憶の障害、見当識障害

睡眠の障害

知能

性格・人格（パーソナリティ）

複雑な意識障害（意識変容、意識狭窄）

●せん妄：意識混濁に知覚障害や健忘などの認知機能の変化が加わり、不安や興奮といった情動変化や行動変化を伴うもの。

●錯覚⇒壁のシミを見て「虫がいる」と言う。

●幻覚⇒誰も居ないのに「人がいる」と言う。

例）夜間せん妄、術後せん妄、振戦せん妄

●もうろう状態：まとまった言動がとれていないが、健忘を残す。

例）てんかん発作後、解離性

●アメンチア：支離滅裂なことを考え思考が散乱する。意識障害を自覚し困惑していることが多い。例）急性感染症、内分泌疾患



感覚と知覚



知覚とは、感覚器が受容した単純な情報が、より高次の情報処理過程（経験や記憶、認識パターン）を経ることによって、対象の印象（形態や性質など）をとらえる働きである。例）同じ曲ならどの楽器でも感覚は違っても同じメロディを知覚する。

感覚によって、大脳皮質感覚野に生じるものは、単純で要素的なもの。
例）明暗、色、形、音

感覚と知覚の違いが、知覚の障害を生じさせる要因となっている。

錯覚

実際に存在する対象を誤って知覚すること。

例) 錯視; 服を人と間違ふ、錯聴; 機械の音を人の声と聴き違ふなど。

幻覚

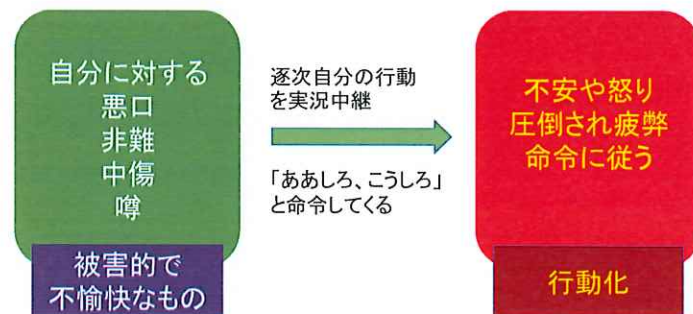
対象のないところに、対象を知覚することを幻覚という。

例) 幻聴、幻視、幻触、幻嗅、幻味など

幻聴

「かすかに人の声で話しているようであるが、内容までは分からない」

「はっきりと意味のある会話として聞こえるもの」



幻聴の種類

●要素性幻聴

単に音や音楽が聞こえる

聴力が低下した状態や高齢者で多い

●幻声

人の声として聞こえる。一般的な幻聴。統合失調症の特徴的症状

●思考化声(考想化声)

自分の考えていることが、外から声になって聞こえてくる

●機能性幻聴

「雨の音に載せて人の声が聞こえる」、「換気扇の音に混じって聞こえる」など実際の音に重ねて聞こえる



幻視

小動物幻視: 虫や小動物が見える

小人幻視: 小さな人間が見える

せん妄(特にアルコール離脱せん妄)や中毒性精神病、症状性精神病、レビー小体型認知症などの器質性精神病。

背後に人が見えるなど、視野の外側に対象を知覚することを域外幻視という。

幻視は意識混濁を伴っていることが多い。

幻触

「皮膚に虫が這っている」、「電磁波でびりびりとしびれさせられる」

主に統合失調症。

体感幻覚: 「脳が腐る」、「子宮があちこちに移動する」などの訴え。

統合失調症、器質性精神障害。

幻嗅

「隣家が悪臭のする薬剤を散布している」、「食べ物に何かにおいがする」などの訴え。

特に統合失調症。被害妄想、被害妄想と関連。

自己臭妄想: 「自分の体から嫌なにおいが出て、周囲から嫌われる」。

妄想性障害、社交不安障害。長期経過で統合失調症に。

精神症状の分類

意識障害

知覚の障害(錯覚と幻覚)

思考の障害

感情の障害

意欲・行動の障害

自我意識の障害

記憶の障害、見当識障害

睡眠の障害

知能

性格・人格(パーソナリティ)

思考の障害

思考過程の異常
(思路障害)

思考内容の異常
(妄想)

思考体験の異常

思考過程の異常(思路障害)

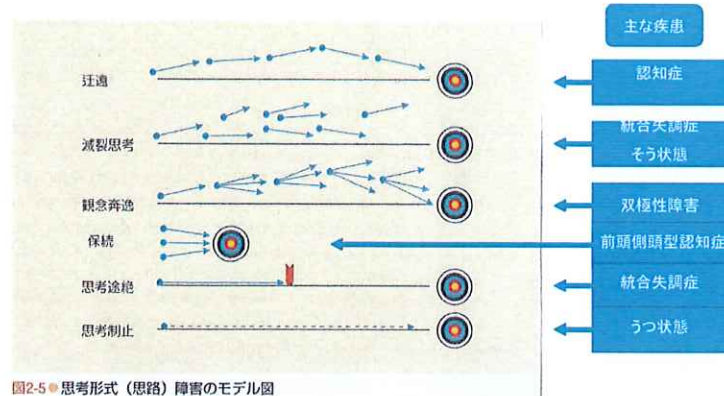


図2-5 思考形式(思路)障害のモデル図

思路障害

・連合弛緩<減裂思考<言葉のサラダ

連合弛緩は談話内容を追えるがまとまりが悪い

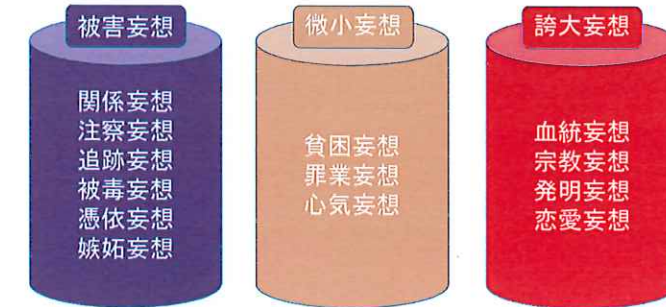
言葉のサラダは単語の羅列

・意識障害による減裂と同様な状態は思考散乱という

・言語新作

本人しか分からない言葉をつかって使用

妄想の種類



※カプグラ症候群; 家族などよく知っている人物が偽物であり、うり二つである別人がすり替わっていると確信している。統合失調症などで。

思考体験の異常

思考を制御できなくなり、思考の能動性を失った状態

- 強迫または強迫観念; 不合理と分かっているのに追いつけない
- 強迫行為; 強迫観念を和らげようとして行われる行為
- 恐怖症; 対人恐怖、閉所恐怖、先端恐怖
- 支配観念; 感情に強く裏づけられた観念で、その人の思考や行動を持続的に支配するもの
- 自生思考; 脈絡のない考えが勝手に次々に浮かんでくる
- 作為思考(させられ思考)
- 思考奪取; 考えが抜き取られる
- 思考吹入; 考えが吹き込まれる
- 思考伝播; 自分の考えが外部に知れまわっている

思考内容の異常(妄想)

妄想とは、不合理で誤った考えや判断であるにもかかわらず、本人はそれを正しいと強く確信しており、訂正できないものをいう。以下のような分類がある。

一次妄想 統合失調症に見られ、生じ方が了解不能

二次妄想 うつ病、双極性障害に見られ、状況などから了解が成り立つ

妄想気分(漠然とした不気味な感じが残り、大変なことが起きそうだという切迫した不安感におそわれる)

妄想知覚(直感的に独特の意味づけをし、訂正不能な確信に至る)

妄想着想(突然、何の根拠もない妄想を思いつく。「自分は宇宙人だと分かった」等)

世界没落体験(不安緊迫感⇒「とんでもない厄災が起こる」⇒「この世が減じる」)

※妄想体系; 様々な現実の情報を取り入れ、一つの大きな妄想世界をつくっている。

精神症状の分類

意識障害

知覚の障害(錯覚と幻覚)

思考の障害

感情の障害

意欲・行動の障害

自我意識の障害

記憶の障害、見当識障害

睡眠の障害

知能

性格・人格(パーソナリティ)

感情の障害

- 不安と恐怖
- 抑うつ気分
- 多幸症; 状況に関係なくニコニコ
- 児戯的爽快
- 爽快気分・発揚気分; 幸福感、充実感、楽天的、易怒性、好訴的
- 感情鈍麻; 感情表現の低下。関心の喪失。身辺不整
- 易刺激性の亢進; 怒り易い
- 感情(情動)失禁; 些細なことで泣き、笑い、怒りが惹起。情動自制不可
- 両価性(アンビバレンツ); 同一の対象に相反する感情が同時に併存
- 離人感; 現実感の喪失。自我障害の1つ

第107回 看護師国家試験 午後 13

典型的なうつ病の症状はどれか。

1. 幻聴
2. 感情失禁
3. 理由のない爽快感
- ④ 興味と喜びの喪失

A.4

精神症状の分類

意識障害

知覚の障害(錯覚と幻覚)

思考の障害

感情の障害

意欲・行動の障害

自我意識の障害

記憶の障害、見当識障害

睡眠の障害

知能

性格・人格(パーソナリティ)

意欲・行動の障害

①意欲・行動の亢進(興奮状態)

- 躁病性興奮; 躁状態。浅慮や自尊心の肥大→社会的逸脱行動
- 緊張性興奮; 不安緊迫感。焦燥感。意思疎通不良の時もある

②意欲・行動の低下

- 自発性の喪失・無為; 自発性低下、好癖的。統合失調症の陰性症状
- 制止; 動き出しがスムーズにいかない昏迷; 意識清明であるも意志の表出や行動が認められない

③緊張病症候群

- カタレプシー; 意志発動性の低下、被暗示性の亢進。長時間同じ姿勢
- 常同症; 状況に応じた行動不可。体を前後に揺するなど同じ動作の反復
- 拒絶症; 他者からの指示・誘導に全てに拒否的態度
- 無言・緘黙; 意識があるも、全く発話がない

精神症状の分類

意識障害

知覚の障害(錯覚と幻覚)

思考の障害

感情の障害

意欲・行動の障害

自我意識の障害

記憶の障害、見当識障害

睡眠の障害

知能

性格・人格(パーソナリティ)

自我意識 外界から自己自身を区別して実感できること。

- ①能動性; 自分が感じ、考え、行動している
- ②単一性; 自分は唯一の存在である
- ③同一性; 以前に自分も、現在の自分と連続した同一の存在である
- ④境界性; 自分と外界、自分と他人は別個の存在である

自我意識の障害

- 離人症; 自分が生き生きと主体的に感じ、考え、行動しているという実感がわかない。周囲を見ても現実感がない
- 作為体験(させられ体験); 能動性の障害
- 解離; 自我意識の同一性の障害。防衛機制。耐え難い苦痛などがあると無意識に心を切り離すことによって自分を守る